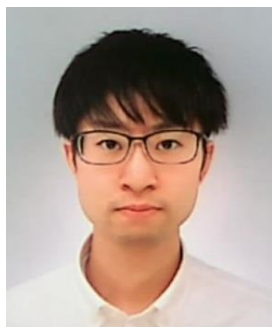


会計専門コース 2年

三浦 紘嵩



会計研での受験生活について

私は大学3年生の2015年10月から公認会計士の受験勉強を始め、大学4年生の2016年12月の短答式試験に合格し、2017年4月に早稲田大学大学院会計研究科に入学しました。その後、2017年8月の1回目の論文式試験では合格できず、2018年8月の2回目の論文式試験でようやく合格できました。

私は他の受験生と異なり、授業時間のみ大学院におり、それ以外の時間は予備校でも自習せず、主に家で受験勉強を行っていました。受験勉強のスタイルはそれぞれの受験生で異なると思いますので、自分に合ったスタイルを見つけることが最も重要であると私は考えております。

試験対策について

基本的に、予備校のテキストを周回させることを意識しておりました。学問全般に言えることですが、初見の論点を人に説明できるレベルまでになると、ようやくその論点を理解したということができます。よって、一定のレベルに至るまでは、ひたすら予備校のテキストを周回させることで、知識の定着を図ることが理想的です。しかし、予備校のテキストの性質を考えると、人に説明することができるレベルになるまでに網羅性の限界がきてしまい、論点の理解まで至りません。そこで、会計研の先生を頼ることにより、完全な理解ができると私は考えております。先生方は、各分野における深い知識と様々な背景を、実務の例を交えて教えてください。是非、会計研の先生と親しくなって、各論点の深い理解を目指してください。

会計研の先生方・同級生の存在

私は会計研の先生と親しくなることで、様々な知識や実務の例を知ることができました。また、優秀な同級生と常に情報を交換することで、互いに高め合ってきました。会計研の魅力は、卒業後に短答式試験の一部科目免除にあるとか、早稲田大学というブランドにある等、言われることがあります。私は、それらとは異なる点に魅力を感じております。魅力だと思う点は、会計研におられる先生、事務室の方々、OB・OG、同級生の誰しもが、公認会計士試験について理解があり、さらに、惜しみのない協力をして下さる点です。受験勉強のみならず、自分のキャリアを形成することは、自分一人の力では成し遂げられません。周りの人と関わって、互いに助け合う環境があるからこそ、自分の目標だけでなく、周りの人の目標も同時に達成できるのです。是非、会計研にいる様々な方々と関わってみてください。今まで見えていなかった新しい世界があるはずです。

入学検討中の方へのメッセージ

各章のメッセージを総括すると以下ようになります。まず、第一に自分のスタイルを見つけてください。受験勉強するにせよ、就活をするにせよ、自分のやりたいことに合わせた生活やスケジュールリングが大切です。第二に、先生方と親しくなって下さい。会計研の先生だけではなく、皆さんがご在籍の大学や予備校の先生と親しくなることで、思っている以上のイイコトが訪れます。

最後に自分の周りの人との関係を大事にして下さい。自分が落ち込んだり失敗したりした時に、自分は孤独だと思ってしまう人は多いですが、落ち着いて周りを見渡してみると、自分を支えてくれたり、助けてくれる人は多いはず。皆さんが会計研に入学して下さることを楽しみにしています。



会計専門コース 2年

田中 友樹



会計研での受験生活について

会計研での受験生活は、会計研の授業・会計研の自習室・資格学校の授業・資格学校の答練の繰り返しでした。これら4つを繰り返す中で、移動は時間的・体力的に敵だと考えたので、資格学校は早稲田校を選び、会計研のロッカーにすべて荷物を置き、会計研の授業に出て、自習室で勉強し、答練も時間を計って自習室で行いました。勉強量のある程度は確保する必要がある試験ですので、限られた時間と体力をいかに勉強に配分するかが重要であると考え、勉強（と休憩）はすべて早稲田で行いました。

試験対策について

試験対策については、短答4科目・論文式6科目と科目数が多い試験ですので、苦手科目を作らないようになるべく毎日全科目を勉強することが大切だと考えていました。短答4科目は毎日勉強できますし、論文式6科目についても、計算問題を時間内に1発で正答することを心掛ける、計算と理論で同じ論点をやる等、効率良く勉強できるようになれば十分に毎日全科目を回すことが可能です。勉強した分だけ結果に反映されますので、私の論文式試験の得点率は各科目でほぼ一律でした。毎日全科目均等に勉強していた結果が表れたのだと思います。

2年生時の過ごし方

8月末の論文式試験までは、質が高くかつ試験に必要と思われる最低限の授業を登録し、試験に専念していました。試験が終わると、趣味の合気道や友人との交流も再開し、また就職活動に勤しみました。社会人経験が無かった私にとって、将来のキャリアを初めて真剣に考えたことは貴重な経験となりました。監査法人への就職を決めたので、入所後携わる証券業務の会計実務について監査法人の出版している書物を読む等、入所後に直接活きるような勉強を開始しています。

会計研の先生方・仲間の存在

会計研の先生方・仲間の存在なくして、私の論文式試験の合格はありませんでした。入学前、会計士試験で極めて重要な財務会計論が苦手でしたが、実際に基準をドラフトされている先生方の授業や先生方との議論を通じて、暗記のみに頼っていた論点が理解に変化し、基準横断的なブレイクスルーが何度も起こり、成績も伸びました。また、同じ目標に向かう先輩・同期・後輩が自習室で学習する姿は励みになり、共にした昼食やラウンジでのささやかな会話は勉強への活力となる息抜きになりました。私を合格へ導いてくれた会計研に感謝しています。



三上 瑠美

会計研入学時の自分

私は大学四年生の冬頃から会計の勉強を始め、会計研入学時の会計知識は簿記二級レベルでした。大学院在学中に論文式試験合格を目指していましたが、短答式試験の範囲さえ全く網羅できておらず、会計研の授業についていけるのかという不安がありました。しかし、会計について予備校とは違う切り口で学ぶことは、会計士試験合格のみならずその後の会計士としてのキャリアにも役に立つと考え、入学を決意しました。

試験対策について

私は会計研と予備校のダブルスクールをしており、会計研の授業の合間をぬってオンデマンドで予備校の授業を受講していました。会計士試験の範囲を網羅する前に会計研に入学したため、特に短答式試験までは新しく学ぶ論点に関して会計研と予備校で追いつ追われつという状況で大変でした。しかし、同じ論点でも会計研と予備校では違う見方で教わることがあり、それを面白いと感じたため、双方で学んだことを生かし相乗効果でより理解を深めるよう心がけました。

おすすめの授業

私がおすすめる授業は、「企業会計基準ワークショップ」です。この授業は、会計士試験における財務会計の範囲を念頭に会計基準やその背景となる考え方を学び、各論点を横断的に考える力を身に着けることを目的としています。そのため単なる基準の暗記ではない応用的な能力を身に着けることができます。

先生は実際に会計基準の作成に携わっていた経歴をお持ちのため、基準設定当時のお話などを聞くと、会計基準が少し親しみのあるものに感じることができると思います。また、学生同士の議論の時間が多く良い刺激になります。

入学検討中の方へのメッセージ

会計士試験の勉強は試験範囲が広く、時にくじけそうになることや、目の前の勉強しか見えずに不安になることもあるかと思います。会計研では会計士試験合格を目指す勉強仲間を作ることができることはもちろん、様々な経歴を持った教員陣の授業や、会計に関連したキャリアをお持ちの方々をお招きしての講演会、社会人経験者や会計士以外を目指す同級生との会話など、会計士試験勉強そのものに留まらない学びの場があり、自分の視野を広くしてくれます。そのため、会計士試験勉強のためのみならず、会計士としてのキャリアを考えた場合に、会計研で得られるものは大きいと思います。



会計専門コース 2年

備前 智宏

会計研入学時の自分

私は、大学4年生に進級する直前の3月に公認会計士試験の勉強を本格的にはじめました。大学4年生時の12月の短答式試験に合格していれば、そのまま既卒者として受験専念をして8月の論文式試験に臨む予定でした。しかし、ボーダーに1%足りずに落ちました。この時、受験専念をするか大学院に進学するかで悩みましたが、当時法学部に在籍していた私は大学院の講義を通じて会計・監査を体系的かつ多面的に理解したいと考えており、また、仮に就職活動に切り替えることとなった場合のリスクヘッジを考慮した結果、会計研に進学する決断をしました。

受験勉強と会計研の講義について

公認会計士の試験対策という観点では、専ら大原のテキスト・答練を利用していました。その他には会計研においても無料のキャリア支援講座としてTACの答練を受けることができるため、予備校のカリキュラムに遅れない範囲で、現場対応力を鍛えたいと考えた教科に絞って解き捨てで受講していました。また、会計研の講義では、会計・監査に関する講義を中心に履修し、可能な範囲で英語やERPの講義も受講していました。会計・監査の講義では、基準の設定背景やいわゆる通説以外の考えについても検討することで、試験で書くべき内容に対する理解も深まりました。

合格へのモチベーション

私は通学時間の関係から大学へ通う頻度は高くはありませんでしたが、会計研の友人の存在は一つのモチベーションでした。

会計研で出会った受験仲間は人として魅力的なメンバーが多く、彼ら彼女らと同じ業界に入りたい、同期になりたいという気持ち私が私の受験生活を後押ししてくれました。

一方で、合格への最大のモチベーションと言われると、それは自分自身の気持ちでした。会計士試験の受験勉強を始める段階でそれなりの動機を有し、試験勉強を進めるうちに少しずつ見えてくる、会計士になることで拓ける道に対する憧れが合格への最大のモチベーションでした。

入学検討中の方へのメッセージ

入学検討をされている皆さんの置かれている状況は様々だと思います。同じ会計士志望であっても入学時点の勉強の進捗は人によって異なります。また、入学前の所属が大学や企業であったり、進路も入学時点で監査法人を目指す方だけでなく一般企業就職を予定されている方がいます。私自身の経験で恐縮ですが、結果として会計士試験に合格し、会計・監査に関することは当然のこと他の様々なことにおいても、受験専念では得ることのできなかつたであろうものの見方ができるようになり、入学前に私が求めたことを概ね達成して卒業することができそうです。

入学検討中の皆さんも、現状を分析し、会計研で何を掴みたいかを検討した上で進路を決定していただけたらと思います。



会計専門コース 1年

須藤 大介



会計研での受験生活について

私は入学時に公認会計士試験の短答式試験に合格していたので論文式試験の勉強に特化した学習をしていました。会計研究科は公認会計士を養成するための講義が豊富なので講義時に論文式試験において必要な知識や論述をする際のポイントをインプットして自習時にアウトプットしていました。また自習時には会計研究科の利用できる自習室を利用し朝から夜まで勉強をしていました。そして勉強は長期的な戦いなので気が滅入る時もありました。そんな時でも自習室へ行きみんなが勉強をしている姿を見て自分を奮い立たせて勉強をしていました。

試験対策について

私は論文式試験の租税法と企業法の科目免除があったので会計学・経営学・監査論という科目を勉強していました。またその三科目のバランスを保ちながら勉強する必要があると考えていました。その三科目のバランスを保つということは、科目間のバランスだけでなく科目の中の論点ごとのバランスが保たれることで成立すると考えました。そのため一日の学習計画には各科目のある論点のある時間で実施するというようにしていました。そしてその結果自分が苦手とする論点が多くなり出されるのでそれをひたすら消化するということをしていました。



2年生時の過ごし方

広い視野と英語力をもった公認会計士になりたいと思っています。そのために以下の二つのことに注力していきたいと考えています。

一つ目は、ワークショップ科目です。ワークショップ科目においては、皆と議論しながら色々な視点で考えることができるという点から、広い視野をもつことができると思います。

二つ目は会計研究科における Professional Communication科目です。会計を英語で学ぶ科目を履修して、グローバルで通用する公認会計士になりたいと思っています。

会計研の先生方・仲間の存在

秋葉先生をはじめとする公認会計士試験の試験委員を経験された先生が多くおり、その先生方達の講義を受けることで公認会計士試験におけるエッセンスを吸収できます。

また、その先生方達は夏合宿や懇親会など色々なところで絡むことができます。そのため、フラットな関係を築くことができるので、質問をしやすい環境があるといえます。仲間は、公認会計士試験の勉強をしていることが多いため、良き理解者であり、かつライバルでもあるからお互いが切磋琢磨しあうことでモチベーションを維持することができます。

